

日本のふるさと。自給自足的循環社会

広報 京丹波 8

NO.154 2018.8.17 発行 TOWN KYOTAMBA

暑い夏 涼を求めて

- 02 町内の涼やかスポット紹介
- 04 人の動き
- 05 受賞報告
- 06 町内に大きな爪あとを残す
平成30年7月豪雨
- 09 いきいき健康術
- 10 まちの話題

町内で
近場で

暑い夏を乗り切ろう!!

和知地区

瑞穂地区

市場 社会福祉法人 わち福社会



長老の湯



長老の湯中の様子

「長老苑」
電話 84-1748

長老の湯ロビー
にウォーターサ
ーバーを設置し
ています。

三ノ宮 社会福祉法人 山彦会



金木犀



瑞穂山彦苑

「瑞穂山彦苑」 電話 88-0150
「わたしの親元」 電話 88-0156
「金木犀」 電話 88-0001
*「瑞穂デイサービスセンター」 電話 88-0151
*「京丹波デイサービスセンター」 電話 88-0294

毎月末に午後から地域ボ
ランティアによる演奏会
などを実施しています。
(*は日曜日以外開放)

橋爪 社会福祉法人 山彦会



体操の様子



映画上映会の様子

「あんしんサポートハウス木蘭」 電話 88-5511
毎日午前と午後に体操をして、週1回映画上映会を実施しています。

町内では、夏の暑い時期を乗り切るために、涼やかスポットを7月1日から9月30日まで開放しています。涼やかスポットとは、熱中症予防や地域交流の場づくりとして京都府が取り組んでいるもので、冷房の効いた涼しい施設を無料開放しています。暑い夏を家でひとり過ごすよりも、みんなで涼んだほうが楽しい時間が過ごせます。今回は、町内の涼やかスポットを紹介します。ぜひ、お気軽に足を運んでみてください。

京都府内唯一の鍾乳洞 質志鐘乳洞公園

しじしきゅうにょうまうらうらえん

町内には自然が生んだ涼やかスポットも存在します。「質志鐘乳洞」は入り口からの総延長が約52メートル、垂直の穴をはしごで降りる箇所などもあり、来園者に自然が生んだ幻想的な光景とともに、スリルも与えてくれます。

また、暑い夏に洞内に足を踏み入れると、今までかいていた汗が一瞬で冷えるほどの涼しさ。年間を通して気温が14度程度に保たれています。同公園内には、キャンプスペースやコテージも

備えており、家族そろって楽しめる場となっています。

「春の桜や秋の紅葉もいけれど、暑いときに涼しいところに入っていたら、ひと時の清涼感を感じてみるのもいかがですか。また、園内ではニジマス釣りもできます。皆さまのお越しをお待ちしています。」

質志鐘乳洞公園
後藤会長



地域自立支援協議会委員

(任期:平成32年7月6日まで)

- [新任] 青山 直子
(障害者生活支援センターこひつじ)
- [新任] 荻野 由夏(京都府立丹波支援学校)
- [新任] 山本 明(京都府南丹保健所)



太田町長から委嘱状を受け取る青山さん

自殺対策推進委員会委員

(任期:平成32年3月31日まで)

- 垣田 秀治(国保京丹波町病院)
- 大槻 秀憲
(医療法人福知会もみじヶ丘病院)
- 友金 一文(町民生児童委員協議会)
- 奥井 光春(町商工会)
- 太田 康之(町消防団)
- 野間 博之(町老人クラブ連合会)
- 片山 俊明(町身体障害者福祉会)
- 谷 茂代(町女性の会)
- 小森 誠(和知中学校)
- 梅田 孝之(京都府南丹保健所)
- 津田 勝二(町社会福祉協議会)

※10ページに関連記事掲載

人権擁護委員

(任期:平成33年6月30日まで)

- [新任] 西田 三郎(下大久保)
- [再任] 友金 一郎(大朴)
- [再任] 山崎 要志(中台)
- [再任] 村山 孝秋(辻村)
- [退任] 西田 光子(下大久保)

表彰 長年の人権擁護活動に感謝 西田光子さんに法務大臣感謝状

西田光子さん(下大久保)に、長年にわたる人権擁護や人権思想の普及に感謝する、法務大臣感謝状が贈られました。西田さんは平成18年4月、人権擁護委員を委嘱され、平成30年6月までの4期12年3ヶ月の長期にわたり、積極的に人権啓発活動に取り組み、園部人権擁護委員協議会委員としても活動さ

れ、南丹地域の人権擁護に尽力されました。 「たくさんの人の力添えで今日の日を迎えられた。感謝の気持ちしかない」と話し、「今後も今までの経験を生かして、日常生活でみなさんの役に立ちたい」と人権に対する思いは消えることはありません。



法務局園部支局矢谷支局長から感謝状を受け取る西田さん(右)

表彰 地域活性化に貢献 わち西部元気づくり委員会に地域力再生功労表彰



表彰状を持つ片山会長

地域住民の交流促進を図る合同運動会などに取り組みわち西部元気づくり委員会が、京都府地域力再生功労表彰を受賞。6月19日の京都府開庁記念式典で表彰されました。

この表彰は、地域活動を通じて人と人がつながる温かい社会づくりに取り組み、地域力の向上に功績があった団体などに贈られます。

同委員会は、和知地区の5集落の住民から構成され、平成22年6月に設立しました。集落の枠を越えた地域の連携によ

る合同運動会や公民館での映画上映会を企画し、地域の活性化を図っています。

また、住民の環境意識を高め、美しい地域づくりを促進するため、使用済みてんぷら油の回収活動や環境活動の学習会を開催しています。片山里史会長(広野・写真)は「委員会のみんなが喜んでくれる。うれしいことです」と受賞の喜びを話し、委員会の活動については「今までの取り組みをこれからも続けていき、新たな取り組みにも挑戦していきたい」と意欲を新たにしました。

平成30年7月豪雨

町内に大きな爪あとを残す!



土砂崩れで道がふさがり(質美)

かつた和知地区の北部周辺地域では、大迫公民館12世帯20人、長瀬公民館9世帯16人、西河内集落センター24世帯42人、篠原体育館58世帯98人が避難所で身を守りました。

上乙見区では、集落に続く唯一の町道が土砂崩れで通行止めになり集落が孤立。住宅被害も大規模半壊1件、床上浸水2件、床下浸水6件など、と甚大な被害を受けました。

和知北部5集落(西河内、下栗野、細谷、上栗野、仏主)では、水道管の破損により、一時断水し、96戸約240人に影響ができました。

消防団の活躍

地域を巡回し、危険箇所などを確認したり、家屋への浸水防止のための土のうの設置などを行った。と昼夜を問わず住民の生命・財産を守るため活動した消防団。

和知支団では、大雨特別警報が発せられる前に河川の急激な増水など現場の状況から危険であると素早い判断をしました。

その結果、住民を避難させることができ、土砂災害などによる人的被害を未然に防ぐことができました。これもひとえに地域に密着して活動する消防団であるからこそなしたことです。

復旧に向けて

京丹波町役場は、町道の法面や路肩崩壊、水道施設などの生活に直結する被害について、早期の復旧に向けて全力で取り組んでいます。

また、被害箇所の調査・把握に取り組んでいます。

京丹波町社会福祉協議会では、被害が甚大なことから、町の要請を受け、7月9日、復旧作業のための災害ボランティアセンターを篠原体育館(篠原)にいち早く立ち上げ、ボランティアを募りました。町民のボランティアを受け入れ、初日の作業には19人が参加しました。

参加者は、被災した住宅5件の住居内や周辺にたまった土砂や泥をスコップでかき出し、懸命な作業を続けました。

台風第7号や梅雨前線の影響で西日本を中心に降り続いた豪雨は本町にも大きな被害をもたらしました。直近の被害状況についてお知らせします。

特別警報が発せ

7月5日から8日にかけて梅雨前線の影響で雨が降り続けました。5日午前4時35分に町内に大雨警報(土砂)が発せられ、警報発表と同時に京丹波町役場内に災害警戒本部を設置しました。同日午後7時には災害警戒本部から災害対策本部に移行。同午後7時30分には避難準備・高齢者等避難開始が発令され、消防団も出動し、家屋への浸水や土砂崩れなどに対応しました。

6日午後3時35分、丹波地区に土砂災害警戒情報が発表されると、日が変わった7日午前2時5分に和知地区が、午前3時50分には瑞穂地区にも同様に発表されました。

その後、更に雨あしが強くなり、河川が増水。7日午前6時45分に本町を含む京都府に大雨特別警報が発せられました。河川の

越水や土砂崩れ、水道管の破損による断水など町内各地で甚大な被害が起きました。

豪雨をもたらした梅雨前線

今回の豪雨の69時間総雨量は、町内で最も多い丹波地区(高屋川橋)で351ミリ(京都府発表)。

河川の護岸を洗い流し、今までの風景を一変させ、家屋への土砂流入など、大きな被害をもたらした今回の梅雨前線。平成25年9月に全国で初めて京都府に特別警報が発令された台風18号の記憶がよみがえってきた方もあるのではないのでしょうか。

被害が大きかった和知地区

町内での避難所では5日から8日までに38カ所開設し、475人が避難をされました。その中でも、避難者人数が多

本町の被害状況

(掲載被害に関する数値は、8月2日現在に本町が把握しているものです)

【家屋などの被害】	大規模半壊	1件
	床上浸水	4件
	床下浸水	10件
	一部損壊	1件
【道路の被害】	町道	32箇所
	林道	111箇所
【河川の被害】	護岸崩壊など	100箇所
【農業関係の被害】	農地	約100箇所



住民を避難させる消防団員(上乙見)



住居内に土砂が流入(上乙見)



土砂崩れで道がふさがり(上乙見)



河川の越水で田んぼが浸かる(上大久保)



Dr's Message
いきいき健康術 第131回

町立病院・診療所の医師や専門職員が健康情報をお届けします。

『夏の暑さ対策』

ひらたちはる
平田千春 看護部長
国保京丹波町病院

京丹波町病院では、暑さ対策や省エネを目的に、毎年外来の窓にゴーヤカーテンをしています。

子どもの熱中症対策

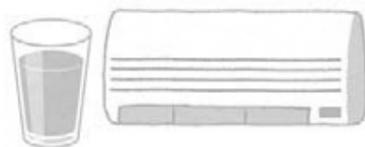
最近の子ども達は、暑さに弱いと思われがちですが、暑さに慣れていないのがその理由です。子どもは体温調節機能が不十分ですので、いきなり暑い所に出て長時間過ごす、すぐに熱中症になってしまいます。

また、外の気温は地面に近いほど高くなりますので、高さ150cmのところでは32.0度だとすれば、高さ50cmのところでは35.0度となり、3度も高くなります。ですから、小さなお子さんと外出する際は特に注意が必要です。

1 保護者がきちんと子供の様子をチェックし、こまめな水分補給を促しましょう。

2 暑さ対策グッズや日焼け止めを上手に使用しましょう。

3 脱水対策として、お風呂上りに足を冷水につけると汗の量を押さえることができます。



熱中症対策のため、寝る前にコップ1杯の水分補給をすることや、夏野菜を食べ、体温を下げる工夫を行いながら、この夏を元気に乗り切りましょう。

今年の7月は14年ぶりに各地で気温が40度を超えるなど異常な暑さとなりました。地球温暖化の影響か、ここ100年で夏の平均気温は2度上昇し、冬の気温は4度上昇しているそうです。

そんなこの夏、熱中症を予防し、少しでも快適に過ごすために、今回は暑さ対策についてお話します。小さいお子さんがいるご家族も要チェックです。

室内の暑さ対策といえますと扇風機やエアコンですね。特に暑くて寝苦しい夜を乗り切るために、次のような使い方をぜひ試してみてください。

- 1 寝る前にエアコンを26～28度くらいのお好みの温度に設定し部屋を冷ます。
- 2 寝る時には、室温28度程度で除湿運転に切り替える。
- 3 タイマーは1時間～3時間がおすすめ。
- 4 扇風機は壁に向けて気流は弱に。体に直接当たらないように首振り機能を使う。

外出時の暑さ対策グッズとしては、定番の日傘、日よけ帽子、扇子のほか、最近ではひんやりグッズ、冷却スプレー、ミニ扇風機など色々ありますので使ってみてください。

町立医療施設の敷地内は全面禁煙です。ご理解とご協力をお願いします 京丹波町病院 電話 0771-86-0220

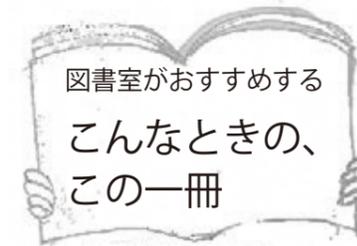
「こんにちは赤ちゃん」コーナー 申し込み募集

〈対象者〉

町内在住で、申し込み時に生後1歳未満のお子さま(申込方法)お子さまの顔写真に申込書を添えて、役場または支所まで、持参・郵送・メールのいずれかで届けてください。申込書は役場本庁、支所、瑞穂保健福祉センターにあります。

【問】

京丹波町企画政策課
電話 0771-82-3801
Eメール kikaku30@town.kyotamba.lg.jp



図書室がおすすめする
こんなときの、
この一冊

『赤毛のアンの手作り絵本』

鎌倉書房

カナダのプリンスエドワード島にあるアヴァンリーという村に、ちょっとおしゃべりで、空想をめぐらすのが大好きな少女がやってくるころから始まる「赤毛のアン」。読まれた方も多いのでは？

この「赤毛のアンの手作り絵本」は、「赤毛のアン」に登場するお料理やお菓子、雑貨などを、物語を進めながらすべて写真で紹介されており、作り方もていねいでわかりやすいです。

何だか気分がぼんやりしているとき、パラパラとめくっているだけで、アンにしやまさこの空想の世界に誘われ、楽しい気分になってきます。

お料理やお菓子、小物作りの好きな方にもおすすめです。

(三ノ宮公民館図書室 西山雅子さん)



図書室ご案内 中央公民館(蒲生)、山村開発センターみずほ(大朴)、旧梅田保育所(鎌谷下)、三ノ宮基幹集落センター、質美振興センター、和知ふれあいセンター(本庄) 貸出期間 2週間 貸出冊数 1人1回5冊まで

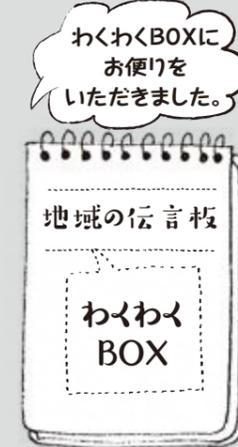
わたしの健康術

8年前に大動脈解離という大病をわずらい23日間入院しましたが、無事に退院し、今は普通の生活を送っています。そのとき医師から健康になる方法を教えてもらいました。それは「歩くこと」です。退院後から一日一万歩を目標にウォーキングをしています。テパートでは、エスカレーターやエレベーターを使わずに階段を上ります。歩いているときにゴミを発見したときは拾っています。みなさんもウォーキングをお試しください。(本庄区在住・吉田さん)

投稿ありがとうございます。元気にこれからもウォーキングがんばってください。



珍しいレンコンの花が咲いていたので投稿します。(中台・山崎さん)



お便り募集!!

はがきに住所・氏名・電話番号を記入のうえ、皆さんの身近な情報や広報紙への感想などをお寄せください。 ※匿名希望やイニシャルの場合は、氏名を記入したうえで、その旨を明記ください。(お寄せいただいた情報は随時、掲載します。)

【送り先】〒622-0292(住所不要)京丹波町企画政策課広報京丹波「わくわくBOX」係
ファックス/82-2500 Eメール/kikaku30@town.kyotamba.lg.jp



町政について話す太田町長(竹野地区基幹集落センター)

健康の里づくりに向けたミーティング

町政懇談会「タウンミーティング」

地域の皆さまと太田昇町長で健康の里づくりについて話しあう町政懇談会「タウンミーティング」が、7月3日から8月9日にかけて12会場で行なわれました。初日の竹野地区基幹集落センターでは、47人が参加しました。

タウンミーティングでは、太田町

地域の活性化に向けて

住民自治組織情報交換

竹野活性化委員会と松山地域振興会の意見交換会が7月19日、竹野地内で行なわれました。

意見交換会は、町内の住民自治組織同士の交流を図ることを目的に実施され、竹野地区の憩いの場になっている竹野サロンで活動の説明を受けた後、場所を竹野地区基幹集落センターに移し、小学校との連携や移住者に対する策などの意見交換が行われました。

竹野活性化委員会は、「とりあえずやろかいな」を合言葉に地域の活性化に取り組みしており、移住者を受け入れた話などを中心に活発な意見交換



意見交換会の様子

が行われました。松山地域振興会は、「できない理由を探さずに、できる理由を探していきたい」と気持ちを新たにしました。

京丹波町の「今と未来」を知る

蒲生野中地域学習

京丹波町の「今と未来」を考える地域学習の2回目(7月10日)、3年生を対象に蒲生野中学校で行なわれました。

地域学習は、京丹波町の強みや今後の展望を理解し、郷土愛につなげることを目的に、「町の現状」「町の施策」「町に望むこと」と3回に分けて行なわれました。

2回目となる「町の施策」では、講師に農林振興課、商工観光課、教育委員会の職員を招き、森林資源の活用や観光や起業による地域活性化、子育て施策について学びました。

生徒らは、自分たちの住んでいる町を知ろうと、真剣なまなざしで講師の話聞いていました。



農林業について説明する農林農林振興課長

長が今年度の予算や事業、町政に対する思いを述べた後、新庁舎建設計画と丹波地域開発株式会社への公金投入について担当職員から説明が行なわれました。

参加者からは、移住者対策や子育て支援、防災対策など京丹波町のまちづくりについて多くの質問が出されました。

タウンミーティングで出た質問や提案については、今後集約されます。

自殺に追い込まれることのない地域づくりを目指す

京丹波町自殺対策推進委員会を設置

京丹波町の自殺予防対策について検討する、第1回京丹波町自殺対策推進委員会が7月12日、瑞穂保健福祉センターで行われました。

同委員会は、町内福祉関係団体・医師会・消防団・商工会・学校などの関係機関で構成され、誰も自殺に追い込まれることのない地域をつくることを目的に設置されました。

わが国では、自殺者数が平成10年に3万人を越え、平成22年以降7年連続して減少しているものの、年間2万人を超えています。

医療現場で観察から学ぶ

シヨブシャドウイング

国保京丹波町病院で7月25日、綾部高校の2、3年生24人が、シヨブシャドウイングを行いました。

シヨブシャドウイングとは、職場で働く人たちに影(シヤドウ)のように密着し、実際の仕事を観察することで、職業への認識を深めることを目的とするものです。

生徒たちは、希望する看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士のグループに分かれて、職場体験ではあまり見ることのできない日常の仕事を観察しました。

看護師業務の体験では、病棟での看護や医療機器の取り扱いのほか、食事介助の様子も観察しました。

平田千春看護部長は「生徒の医



あいさつをする太田町長

委員会のあいさつで、太田町長は「町民一人ひとりが、かけがえのない個人として尊重され、生きがいや希望をもつて暮らすことができるよう、地域の実情に則した計画の策定を目指したい」と思いを伝えました。今後、自殺対策計画の策定に向けて協議が進められます。

療職に対する今の気持ちを大事にしてもらいたい。将来、若い人材が地元で働くことに結びつけば」と期待を込めて指導しました。



病棟での看護の様子を観察する生徒

竹野サロンで学習発表
小学校と地域の交流
学校の授業で学んだことや取り組んだことを発表する学習発表会が7月19日、竹野サロンで行われました。この取り組みは、小学生が日ごろの学習成果を地域の方に見てもらおうもので、年5回行われています。

この日は、竹野小5年生5人が、学校で学んだ「徒然草」や「枕草子」など物語の紹介や「リボンのおどりの合奏を披露しました。竹野サロンに来ている地域の方やスタッフ約40人が、小学生の発表を見守りました。発表が終わると会場は拍手と笑顔で温かい空気に包まれました。

発表をした原澤璃久君(中村)は「緊張したけど、リズムよく合奏ができてよかった」と笑顔で話しました。

ふるさと応援寄付金のお礼	
*敬称略	
片山 山治	10万円
樋口 裕城	1万円
※豪雨災害支援として	
南坂 利秋	1万円
井川 和行	1万円
飯澤 智宏	1万円
桶川 加奈子	5千円
棚橋 和憲	10万円
*掲載内容は寄付者の了解を得ています	

ご寄付のお礼	
※災害支援として	
7件	1,190,991円

わたしたちの町	
人口	14,312 (-23)
男	6,810 (-7)
女	7,502 (-16)
世帯数	6,320 (-8)
8月1日現在 / () は前月比	

ジンバブエダンスで 異文化交流

〔丹〕波地区小学校合同芸術鑑賞会
アフリカ・ジンバブエの伝統文化鑑賞会が6月21日、丹波ひかり小学校で行なわれ、ジンバブエの伝統音楽・ダンスを学ぶ12～17歳の男女でつくるグループ「ジャナグル」が伝統音楽とダンス9曲を披露しました。

鑑賞会は3校合同で開催され、丹波ひかり小、竹野小、下山小の児童約300人が、迫力のあるダンスを体感しました。



ジンバブエの伝統ダンスを踊るジャナグル

児童らは、独特のリズムを刻む太鼓の演奏に合わせて、激しく足を踏み鳴らしたり、ジャンプしたりする踊りに拍手を送り、見入っていました。

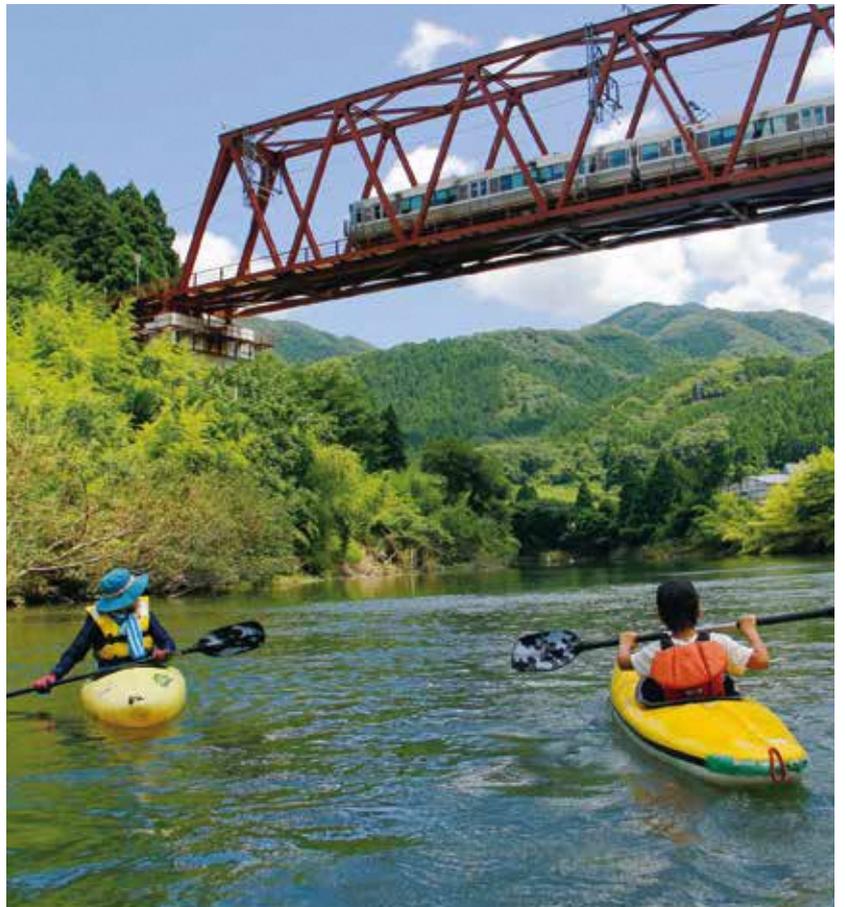
また、ジャナグルのメンバーと一緒に踊ったり、「幸せなら手をたたこう」を歌ったりして交流を深めました。竹野小6年の谷口鼓汰郎たくとく君は「迫力のあるダンスにびっくりした。太鼓を使って演奏する日本との共通点もあり、世界を越えてつながっていると感じ、面白かった」と目を輝かせていました。

水上散策を楽しむ

カヌー体験教室

カヌーの魅力を伝える体験教室が7月21日、和知川カヌー艇庫前で開かれ、町内外の親子連れなど20人が参加しました。

教室は、カヌーを親しむきっかけづくりに毎年開催しています。7月14日に1回目を行う予定が、「平成30年7月豪雨」の影響で水位が高く中止となりました。



鉄橋を渡る電車を見上げる参加者

参加者は、町カヌー協会の指導員に艇の乗り降りやパドルの操り方などを教わり、上流に向かってこぎ出しました。

2年前から参加している平口遼ひらぐちりょう一さんいち（福知山市）は「2年前に和知川で初めて乗ったカヌーで楽しさを知りました。和知川は急流がありスリルを感じられて楽しい」とカヌーを満喫しました。